

# 東京都離島振興計画（素案）の概要

## 離島振興法の概要

- 昭和28年に制定された議員立法で、10年の時限立法として過去6度の改正・延長を経て、令和4年11月18日に7度目の改正法が成立（10年の時限立法）
- 離島の自立的発展を促進し、島民の生活の安定及び福祉の向上を図るとともに、地域間の交流を促進し、居住する者のない離島の増加及び離島における人口の著しい減少の防止並びに離島における定住の促進を図り、国民経済の発展及び国民の利益の増進に寄与



## 離島振興対策実施地域

- 東京都では、伊豆諸島地域の大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村（2町6村、9島）が対象

## 離島振興計画策定に伴う主な支援措置

- 離島活性化交付金
- 国庫補助率の嵩上げ
  - 港湾、漁港、道路、空港、小中学校、保育所等  
(例：道路 1/2 ⇒ 6/10 小中学校 1/2 ⇒ 5.5/10)

## 伊豆諸島が10年後に目指すべき姿

- ・ 自らのポテンシャルの最大限の発揮と創意工夫により、島しょ地域の魅力と活力が大きく向上している。
- ・ 本土と島しょをつなぐ様々なインフラの整備やデジタル技術の活用により、地理的制約が克服され、島しょ地域の可能性が飛躍的に高まっている。
- ・ 新型コロナや人口減少・少子高齢化等の直面する危機を乗り越えて、持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」を成し遂げることで、島しょ地域の発展が図られている。

## 実現に向けた6つの取組方針

- ① 道路や港湾、空港等の交通基盤の着実な整備により、交通手段が充実している利便性の高い島
- ② 高度な情報通信基盤の整備とともに、誰もがデジタル技術を活用しているスマートな島
- ③ 農業・水産業や観光産業等の活性化と新しい雇用の場が確保・創出されている島
- ④ 医療・防災対策等の充実により、安全安心な暮らしやすい島
- ⑤ 豊かな自然に恵まれた環境にやさしい島
- ⑥ 関係人口の創出による移住定住の促進と誰もが果敢に挑戦できる環境が整備され、島内外の多様な主体を引きつける、人々の活力に満ちあふれている島

## 計画記載事項の概要

### (1) 交通・情報通信

運航事業者の航路運営支援、港湾整備による就航率向上、アクセス手段の充実・多様化、自動運転サービスの導入推進、携帯電話通話困難地域の解消、高度情報通信ネットワークの充実

### (2) 産業・就業

担い手育成、特産品の新規開発・販路拡大、試験研究機関の機能充実、スマート農業・水産業によるDXの推進

### (3) 生活

ごみ処理施設の整備支援、島の特性に応じた住宅供給、空き家バンクの運営支援、医療従事者の確保・定着支援、デジタル技術を活用した島外医療機関受診の支援、離島留学、子育て支援の充実、VRを活用したTGGプログラムの展開

### (4) 観光振興

国内外への幅広い情報発信、新たな観光資源の創出、地域資源の有効活用、環境配慮型旅行やMICE誘致促進等の取組による持続可能な観光の推進

### (5) 環境

エコツーリズムの推進、再生可能エネルギーの活用拡大

### (6) 防災

総合防災訓練・図上訓練の実施、砂防・治山施設の整備、無電柱化の実施、離島港湾DX

### (7) 人材確保・育成、関係人口の創出

島づくりリーダーの育成、移住定住促進事業の推進

### (8) 魅力創出

各島のブランド化の推進、滞在価値を高める宿泊施設の誘致・整備、廃ホテル撤去

## スケジュール

- 令和5年2月24日 東京都離島振興計画（素案）の公表  
パブリックコメントによる意見募集（～3月25日）  
島しょ町村においても住民への意見聴取を実施
- 令和5年5月 計画策定・公表予定

## 大島基本計画

### <10年後の目標>

洋上風力発電設備導入による再生可能エネルギーを活用したまちづくりにより、脱炭素化、産業振興及び防災施策が図られ、「笑顔あふれる、誰もがくらしたくなる島」が実現している。

- 洋上風力発電を中心とした再生可能エネルギーの活用が図られ、脱炭素化への取組が加速している。再生可能エネルギーを活用した新たな産業が形成され、地域の活性化が図られ、定住が促進されている。
- 観光においては、伊豆大島ジオパークの活動をさらに推進し、来訪者が容易に情報を得られ、楽しめる仕組みが構築されるとともに、様々な人が有機的につながり、それぞれが新たな価値を発見する、島内周遊ツーリズムが展開されている。
- 島外生徒受入体制が整備され、関係機関と協力した学習面や教育活動の交流が盛んに行われ、大島の環境を活かした特色ある学校教育が展開され、人材育成が図られている。

## 利島基本計画

### <10年後の目標>

利島の環境と調和しながら安心して住み続けられる生活基盤を作り、地域性豊かな産業振興と交流による活力ある産業基盤づくりを進めることで、将来世代にわたって持続可能な地域づくりを実践し「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」が実現されている。

- 医療、教育、農業、漁業、交通等の多分野でデジタル技術等を活用した地域課題解決が実践されている。
- ワーケーション施設整備やワーキングホリデー受入等による島外人材との交流を通じて、関係人口を創出することで労働力不足に対応し、島の基幹産業である椿産業及び漁業が維持・発展している。
- 大型化する台風等の自然災害に対しても停電・通信障害が発生しない利島の実現に向けて、無電柱化を東京都と連携して実施している。
- 再生可能エネルギーの活用を促進するとともに、空き家活用を含めた住宅施策を推進することで定住促進を図り、持続可能な村づくりが実現されている。

## 新島・式根島基本計画

### <10年後の目標>

- 第1次産業から第3次産業までの全ての産業において、多様で付加価値の高い取組が促進されることにより、足腰の強い地場産業構造が構築されるとともに、雇用機会の拡大が進み、若い世代が安心して働ける職場ができている。
- 移住体験、観光事業等を通して、「ファン（関係人口）」が増加するとともに、島内の新たな魅力や滞在のきっかけとなる価値の再発見につながっている。また、来島者にとって新島村が「一過性の観光地」ではなく、「帰りたい場所」となっている。
- 中長期滞在型UJIターナー者用住宅が整備され、移住者が増加している。事業承継が進み、くさや事業者や宿泊事業者が増加している。また移住者が増えたことにより新たな産業が創出されている。
- 空き家を活用したサテライトオフィス及びコワーキングスペースが整備され、ワーケーション、オフサイト(企業研修)等、民間企業の利用が増加している。

## 神津島基本計画

### <10年後の目標>

神津島で暮らすことで、私たち一人一人が心も身体も健康で豊かな日々が送れるとともに、生きがいと誇りを持って、笑顔あふれる島として「誰もが健やかで、生き生きと活力のある島づくり」を目指している。

- 島ならではの観光・交流産業が育つ活気のある島づくり
  - ・漁業の振興として、資源管理型漁業を推進するとともに、担い手の確保が推進されている。また、流通と販売機能の強化が図られている。
  - ・農業の振興として、新しい特産品が創出されるとともに、流通と販売機能の強化が図られている。
  - ・観光活性化の推進として、観光協会を核とした観光マネジメントが展開され、本島全体を星空公園として位置づけ、各種ツーリズムの充実が図られている。
- 教育環境が整い創造性が広がる生涯学習・文化の島づくり
  - ・離島留学生受入事業の推進が図られている。

## 三宅島基本計画

### <10年後の目標>

- 若年層を中心としたUJIターン者の増加、住居の確保によって後継者不足も解消。三宅村人口ビジョンで示した本村の独自推進の人口を目指していく。
- 島内での医療・福祉体制が確保されるとともに、島外の医療機関と連携し、出産をはじめとした医療・保健・福祉・介護、更には防災分野での相互のネットワーク化を通じ、島民の安心向上が図られている。
- 島外とのアクセスについては、空路・海路のダイヤの見直し、交通機関の増便等により、島民、観光客等の利便性が大幅に向上している。
- 海、山等の自然資源等を活かした新たな観光形態の振興や、農林水産業における島の特産物の生産など、島の魅力を活かし、島民及び観光客に提供する体制が整っている。

## 御蔵島基本計画

### <10年後の目標>

- 積極的な定住促進により、みどり豊かな自然に恵まれた、ゆとりある暮らしと、全ての人々に親しまれる御蔵島「グリーン愛ランド・御蔵島」が実現している。
- 地域外に居住しながら地域や地域の人々と多様に関わる関係人口が1,000人に達している。
  - 「保護」と「開発」との調和が図られ、巨樹の森をはじめとする固有の貴重な動植物、生態系等、先人から引き継いだ太古からの自然環境が残されている。
  - 無電柱化により防災面が強化されている。

## 八丈島基本計画

### <10年後の目標>

町民、地域、企業や団体、行政が協働し、それぞれの多様性を尊重したまちづくりを行い、様々な視点や価値観から相互の知恵を結集し、新たなまちの魅力や価値の共創を実現する。

- 担い手の確保や情報通信技術の活用、そして地域特性を活かした産業の振興を行い、経済基盤を安定させることによって、町民が高齢になっても働くことができる環境づくりをしている。
- 観光は、ワーケーション、MICE等の新たな観光スタイルを取り入れた誘致策を行っている。交通については、空路は現路線を維持し、チャーター便の誘致及びインバウンド需要に向けた取組の対応を行っている。
- 地熱発電を核とする再生可能エネルギーの自給率向上に取り組んでいる。

## 青ヶ島基本計画

### <10年後の目標>

村営住宅等のインフラ整備が前提となるが、5年後の人口を180人、10年後を210人とした人口増を目標としている。あわせて、必要な人材の確保・育成を進め「心あたたか、元気な島」を実現している。

- 太陽光発電による電力供給で令和12(2030)年のカーボンハーフを達成し、島全体の使用電力の50%をこれによりまかなっている。
- 裾野が広い観光産業を基軸に、複数の産業が連携するとともに、テレワーク及び離島留学を推進することで関係人口を増やし、10年後の人口は210人になっている。